

この新聞は、思いのまま、流通経済大学の中で起きたことを「勝手に」取材し、気楽に編集して発行するメディアです。
(略称:つなしん、と呼んでください)



☆気ままに不定期発行です

地域とのかかわり望む声、続々

流経大生による市民「聞き取り調査」の結果まとまる

流通経済大学(千葉原松戸市)が秋学期に開講している「地域社会学」を受講している学生が新松戸キャンパス周辺で行った市民への聞き取り調査「流経大に期待すること」の結果が十二月二十七日までにまとまった。調査結果によると、「イベントなどを通じて、大学が地域とのかかわりをもっと持つてほしい」との声が数多く寄せられたことがわかった。また大学施設を市民がもっと利用できるよう望む声や、小さい子供たちと学生の交流を盛んにしてほしいとの意見も寄せられた。一方で、学生の登校の様子に対する注文も含まれることから、流経経済大学とその学生が、大学側が想像する以上に良くも悪くも新松戸住民の目に留まっている実態も浮き彫りになった。



大学周辺のお店で調査を行う学生

象の移り変わりなども回答する形になっている。
「イベント」などでの「連携」市民の回答で最も多かったのは、大学の催しのイベント

聞き取り調査は十一月二十三日の一日の授業時間内で行われ、この日出席した六十四人の学生全員が参加した。このうち六十二人の学生が市民へのアンケートの結果をレポートにまとめて提出した。中には同日中に質問した市民の方四名に断られ、別の日に再挑戦

し回答を得た学生もいた。聞き取り調査は、対象の市民の方の属性(年齢など)のほか、アンケート場所や職業などを可能な範囲で聞いたうえで流経大に期待することや、質問前と終えた後、どのような気持ちになったのか、など、地域の方と接した学生本人の心

の移り変わりなども回答する形になっている。
「イベント」などでの「連携」市民の回答で最も多かったのは、大学の催しのイベント

象の移り変わりなども回答する形になっている。
「イベント」などでの「連携」市民の回答で最も多かったのは、大学の催しのイベント

とや地域との連携強化に関する要望だ。「行事を増やして交流できる場合」(60代男性)、「イベント情報が手に入りやすくてほしい」(高年齢の女性)、「子供が入れるイベントを」(子供と一緒に主婦)といった、大学主催のイベントの多様化を望む声が目立った。また隣接するイオンフードコートに勤務する男性は「隣同士のだから大きなイベントを一緒に企画したい」(男性店員)と連携を求めると、高年齢者から幼児まで、大学とともに歩んでみたいとの希望が強いことがわかった。流経大が地域との連携強化を願う意見は全体の半数近くの二十

九件、寄せられた。また中には「防災拠点として活用出来たら」「ボランティア活動をもっとしたらどうか」(高校生)など大学側の一層の努力を求める意見もあった。

象の移り変わりなども回答する形になっている。
「イベント」などでの「連携」市民の回答で最も多かったのは、大学の催しのイベント

今回の聞き取り調査は「地域社会が形成されるためには、どのような帰属性が備わっているか」を考察するための一環として行われた。「帰属性」は行動や交流によってより高められることが、学生たちの聞き取り後の「心象変化」からも見て取ることができた。



調査の終了後、ワークシートに結果を書き込む学生たち。表に書ききれず裏までびっちり思いを記した学生も。

象の移り変わりなども回答する形になっている。
「イベント」などでの「連携」市民の回答で最も多かったのは、大学の催しのイベント

目には留まったのは大学施設の利用を求める声だ。特に寄せられたのが学生食堂の利用に対する要望。「コロナ禍前には友人と使っていたのだが」

象の移り変わりなども回答する形になっている。
「イベント」などでの「連携」市民の回答で最も多かったのは、大学の催しのイベント

象の移り変わりなども回答する形になっている。
「イベント」などでの「連携」市民の回答で最も多かったのは、大学の催しのイベント

「(70代の主婦)「子供と食堂に入れたらうれしい」(子供連れの女性)と幅広い年代からの希望が目についた。中には「気軽に学食に入ってみたい」(女子高校生)といった、大学入試につながる提案もあった。食堂利用に期待する声は全体の一割を超える七件。さらに講堂、図書館、体育施設の利用を希望する声のほか、「市民向けの講座を開いてほしい」との要望も寄せられた。

象の移り変わりなども回答する形になっている。
「イベント」などでの「連携」市民の回答で最も多かったのは、大学の催しのイベント

「地域の方に声をかけることができるか不安でした」という小林日向さん(社会学部2年)は六人の方に断られ、七人目でようやく回答をゲット。「当たって砕ける!」の精神でやうやう聞き直りました。私にとって一歩前進することができたきっかけになりました」と綴っている。また鈴木悠介さん(社会学部3年)は「この町の良い部分を教えてもらいました」と地域再発見につながったことをレポートしている。

優しさに触れ、多くの学生の心に変化が

象の移り変わりなども回答する形になっている。
「イベント」などでの「連携」市民の回答で最も多かったのは、大学の催しのイベント

象の移り変わりなども回答する形になっている。
「イベント」などでの「連携」市民の回答で最も多かったのは、大学の催しのイベント

象の移り変わりなども回答する形になっている。
「イベント」などでの「連携」市民の回答で最も多かったのは、大学の催しのイベント

